

# ホットライン社会科

第84号 R6. 8.  
発行 岐阜県小学校  
社会科研究部会

6月5日（水）に今年度最初の県小社研の代議員会をオンラインで開催しました。研究主題『よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習～子どもが社会とつながる授業を通して～』について、研究部から具体的な実践例をもとに、昨年度の成果や課題の説明をしました。その後、各地区の代議員で実践交流を行いました。実践交流では、以下にあるような内容について交流がありました。代議員会で使用しました研究に関わる資料は、各地区の研修会や授業研究会にて活用していただくため、県小社研 HP に掲載しています。今後も県内のすべての先生方と共に岐阜県社会科の研究を進めていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

## 研究内容 1 - (2) 「意識の連続性」と「指導と評価の一体化」を大切に単元構成 → 「見通しカード」(ロイロノート) の活用

- ① 教師は、単元全体や一単位時間の「評価規準」を明確にした上で、児童の意識の変容や、教師の指導・援助を考えることができる。
- ② 児童は、「単元の課題」や「その解決に向けて、自分がどのような学びをしてきたのか（これからしていくのか）」を常に意識しながら、学びを進めることができる。

**見通しカードの活用①**

明治維新では、だれが、どのように、世の中のしくみを整えていったのだろう。

単元の課題

単元ごとのまとめ

**見通しカードの活用②**

単元のまとめ (図1) 児童のロイロノートより 見通しカード

縄文時代の人々は、どのような生活を送っていたのだろう

縄文時代の人々は、身近な木や石、植物や骨を使って、服や道具などを作り、集団で行動して生活していた

米づくりがはじまったころの人たちの生活はどうだったのか

米づくりがはじまったころの人たちは、食文化が大きく変わり、米づくりがさかんになった

## 研究内容 2 - (1) 社会的事象を関連付けて捉え多角的に考える学習活動 → 思考ツールを活用した実践

- ① 事実と事実を関連付けて「つまり…」という社会的事象の意味や特色(概念)を生み出すための学習活動。→ 「社会認識力」の育成
- ② 獲得した概念に対して一度立ち止まり「本当にそうなの？」と吟味するための学習活動。→ 「社会的判断力」「批判的思考力」の育成

多角的に考えるための 具体的な視点例

① 「共通性」「順序性」を考える 様々な立場や意見の共通性や順序性に着目し、社会的事象の意味についての考えを集約する。	<p>「つまり…」タイプ (概念を獲得)</p> <hr/> <p>「本当にそうなの？」 タイプ (多角的に考える) (批判的・吟味的に考える)</p>
② 「異なる立場」から考える 様々な立場の人に着目し、社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える。	
③ 「他の事象」から考える 別の社会的事象に転化して一般化を図り、他の社会的事象との相互の関連を考える。	
④ 「自分との関わり」から考える 自分と社会的事象との関わりを見つめ、社会的事象の意味と自分の生活との関連を考える。	

## 実践例③思考ツール！！

### 「つまり…」タイプ

思考ツールの形式に合わせて調べたり，仲間の意見をまとめたりしていくことで，根拠や理由が関連付き，概念が形成される。下のXチャートは，視覚的に共通点をとらえられるため，概念形成にもつながりやすい

**【身に付く力】**  
◎社会的事象の意味や特色を考える力

### 「本当にそうなの？」タイプ

思考ツールは「比較のしやすさ」にもつながる。例えば上のピラミッドチャートは，信長・秀吉の違いを視覚的にとらえやすく，比較した結果「本当に信長か？」「でも秀吉の方が…の部分…」という思考が働きやすい。

**【身に付く力】**  
◎多角的に考える力  
◎批判的・吟味的に考える力

### 【岐阜県小学校社会科研究部会として 改めて大切にしていきたいこと】

- ・未来が予測困難な時代を生きる子どもたちに、今「社会科だからこそ」付けたい力を見極め、その方法を追究していくこと。
- ・現場の社会科専科の先生方が実践可能なもの、「チャレンジしたい」と思えるものを広げていくこと。
- ・他教科を専科とする先生もチャレンジしたり、他教科にも応用したりできるものを広げていくこと。
- ・各地域からの優れた実践を積極的に取り上げ、価値を再認識したうえで広げていくこと。

## ○全国大会 和歌山大会

### 「持続可能な社会の実現を目指す子供たち（仮）」のご案内

**【第1日目】**（全体会） 令和7年2月6日（木） 会 場 和歌山城ホール

指導講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 小倉 勝登先生

**【第2日目】**（会場校） 令和7年2月7日（金）

第1会場 和歌山市立雑賀小学校  
講師 早稲田大学教育・総合科学学術院教授 藤井 千春先生

第2会場 和歌山市立西脇小学校  
講師 文部科学省初等中等教育局教科調査官 小倉 勝登先生